

一般質問① 雨水・排水対策の推進について

一般質問② 名取駅周辺のにぎわいづくりについて

令和元年度決算に対する総括質疑を行いました。財源の有効活用と市民からの負託への対応はある程度両立が達成できたと捉えて債券購入による運用を行ったこと、名取トレイルセンターへの来館者について周辺施設との間で相乗効果が見られたことなど、答弁がありました。

名取市不当要求行為等対策条例が可決しました。職員へ不当要求行為等を行つた者に文書で勧告し、正当な理由なく従わなかつた場合はその旨を公表できることになりました。「職員を守るために従わなければなりません」という答弁が繰り返されました。本来の目的は「公平公正な業務の遂行を守るために、職員の法令遵守と公益通報に関するため」であり、他自治体の例にあるように、職員の法令遵守と公益通報についても規定すべきであったと考えます。

令和2年度12月補正予算が可決しました。市民墓地公園の使用者数は当初の見込みより多くなりましたが、被災者等墓地については使用率が1割未満にとどまります。歳出では、利用児童が急増し施設が狭隘となつて増田児童センターに年度内に増設されるプレハブ施設への備品購入費、名取土地改良区が管理する排水機場5施設の運用費の一部を賄う岩沼藤曾根地区太陽光発電施設への発電出力制御装置の設置費、児童生徒数の増加により教室数の不足が見込まれる関係課題に対する施策を議論すべく、定例会修工事費などが措置されました。

令和2年度12月補正予算が可決しました。市民墓地公園の使用者数は当初の見込みより多くなりましたが、被災者等墓地については使用率が1割未満にとどまります。歳出では、利用児童が急増し施設が狭隘となつて増田児童センターに年度内に増設されるプレハブ施設への備品購入費、名取土地改良区が管理する排水機場5施設の運用費の一部を賄う岩沼藤曾根地区太陽光発電施設への発電出力制御装置の設置費、児童生徒数の増加により教室数の不足が見込まれる関係課題に対する施策を議論すべく、定例会修工事費などが措置されました。

令和2年度11月臨時補正予算では、北金防災集団移転促進事業跡地の用地取得費・造成等工事費・雨水ポンプ施設の設計及び整備工事費のほか、新型コロナへの感染防止対策を実践して事業を継続している事業者を支援するための感染防止応援金給付事業費などが措置されました。

令和2年12月定例会 令和2年度補正予算など26議案を審議

令和2年9月定例会 不当要求行為等対策条例など23議案を審議

令和元年の台風第19号は、1日当たりの降水量など、全国で観測史上の新記録を更新した。今

年も日本近海の海水温度が非常に高い状態にあり、台風の到来におびえて暮らさなければならない。

台風第19号と同規模の降水があつた場合、洪水被害をどの程度軽減できるか明言できる状況ではない。

水稻収穫後の稻わらが大雨によって流出することを防ぐための対策を講じるべき。

農業者に対し、圃場へのすき込みを早めるなど災害対策への協力をお願ひしていきたい。

自然災害は、ダム建設や河川改修が終わるのを待つてはくれない。そこで、排水用のまことに専用の器具を設置し、増水時に一定の高さまで雨水をためておく「田んぼダム」を導入すれば、かかる費用を小さく、時間を短く進められる。

「田んぼダム」について、導入による効果や課題等を研究すべき。

広範囲での取組や水田耕作者・関係機関などの調整も必要となる。今後、効果や課題について前向きに調査・検討していきたい。

農家が納得して積極的に参加するために、どのような方向性が考えられるか。

「田んぼダム」について、導入による効果や課題等を研究すべき。

広範囲での取組や水田耕作者・関係機関などの調整も必要となる。今後、効果や課題について前向きに調査・検討していきたい。

農業者の方々の協力を得やすいような環境整備も図りながら進めていきたい。

一般質問② 約3年間にわたる水道料金誤請求の件について

水道使用者2者に対し、平成29年11月の水道メータ交換以後、料金請求額を取り違えていたことが、今年10月に判明した。

原因、判明の経緯とその後の対応は。

有効期間満了量水器交換の際、水道メータを取り違えて設置したことが原因である。一方の使用者から使用中止の申込みがあり、閉栓作業を行つたところ、もう一方の使用者から水道が出なくなつたと連絡があり判明した。

警察との協議が大前提になるが、非常にハーフドールが高い問題だと捉えている。

曜日や時刻を限定して県道仙台名取線の一部を歩行者天国とすることによる効果や課題を研究してはどうか。

商店街が空洞化した一つの要因として、交通量が増えたことにより道路の両側にある商店街が真ん中で分断され、人が安心して歩けなくなり、商店街からだんだん人が去つてしまつたことがあると想定される。

駅周辺で、民間事業者が屋台を営業できる空間づくりを検討してはどうか。

利用者を増加させるための施策の一つとして研究していきたい。

交流は会話から始まる。新型コロナウイルスの感染が収束すれば、人と人との距離は再び近くなっていく。むしろ、高齢化や孤立化が進む今後の日本では、他人同士が会話をする機会を積極的につくつていかなければならぬ。

能を入れ替え、1階の事務室に飲み物を提供できるカフェ的機能を整備し、さらに周辺の屋外にテーブルやベンチを設置して、利用者が交流できる空間をつくつてはどうか。

名取駅コミュニティプラザの1階と2階の機械を複数設置することで、利用者の利便性が向上する。

交流は会話から始まる。新型コロナウイルスの感染が収束すれば、人と人との距離は再び近くなっていく。むしろ、高齢化や孤立化が進む今後の日本では、他人同士が会話をする機会を積極的につくつていかなければならぬ。